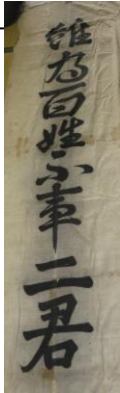




東田川文化記念館だより

【第298号】令和4年7月1日
 電話 0235-64-2537
 FAX 0235-64-2396
 休館日 毎週月曜日
 発行 公益財団法人藤島文化スポーツ事業団



「酒井藩入部 400年 酒井家と庶民」展

7月1日(金)~24日(日)

開館時間 9:00 ~ 16:30

会場 ギャラリー藤 入場 無料



江戸時代、三方領知替えが出され(酒井藩、川越藩、長岡藩)庄内の農民はこれを阻止しようと決死の覚悟で臨みました。地域のそれぞれの旗をかかげ、上藤島六所神社近辺に大勢集合した図が残されています。「百姓たりといえども二君に仕えず」の旗は長沼の奥泉氏のご先祖が掲げたもので市の文化財です。このたびこの貴重な旗をお借りし展示致します。また、古郡の田澤家が酒井藩主から賜った盃を展示します。八色木は松山酒井藩の領地(旧松山町現酒田市)であったもので藩主がお休みになった肝煎 飯鉢家に残された「御小休」の看板や大名行列の毛槍あるいは御傘の柄と箱まくらを展示します。是非ご覧下さい。酒井藩3代藩主酒井忠勝が庄内に入って400年です。庄内藩にゆかりのある施設では400年を記念した催事を行います。それぞれの施設の展示期間中にスタンプラリーを実施しています。当館もこの展示で参加しています。



酒井家庄内入部400年

【新しい生活様式による当館入館の際のお願い】

- せきが出る時やかぜのような具合の場合は入館をご遠慮下さい。
- マスクをしてきてください。
- 受付で検温して下さい。37度5分以上の熱がある場合は入館不可。
- 入口で手・指の消毒をして下さい。
- 入館者受付名簿に連絡先をご記入下さい。この名簿は新型コロナが発生した場合の濃厚接触者の連絡以外の用途には使用しません。
- 各展示室の入館人数制限により観覧をお待ち頂く場合があります。

《寄稿》東田川文化記念館と郷土研究サークルへの想い

郷土研究サークル 青山 崇 (山形市在住)

はじめに 拙著『地域・人々と共に八十五年 世のため人のため』(2017年7月発行)で、藤島人(びと)にさせてくれた東田川文化記念館と郷土研究サークル」とし、僅か2頁だけ書いている。しかも催事や少々の感想だけである。卒寿を迎え、山形市在住で資料など極めて不便である。ハンデを乗り越え、どこまで書き切れるか。不安な船出であるが漕ぎ出でてみよう。



文化記念館生みの苦しみ 今思えば、私にとって退職後の生き方に関わる大問題である。当時文化財担当職員で現サークル会員・阿部公彦さんが『歴史を語る建物たち』(山形県:著者山口泰文)で話している。ほぼ全文が阿部さんの聴取と思われ、初めと終わりに、阿部さんの話しを括弧している。「解体か保存か、

庁内や議会でも意見が分かれ、最初は解体の方が優勢だった」と振り返る。しかし、最終的に、文化財専門家の意見もあり、両建物を現地にそのまま保存することになった。

次の問題は約8億円の修復保存費である。政府は、すでに1965(昭和40)年頃から、近世の民家建築や近代の洋風建築が文化財に指定される例が漸増していた。郡役所・郡会議事堂は1988年(昭和63年)県有形文化財に指定された。しかし、これらの建築は急減し、より緩やかな規制のもとで、幅広く保護することが必要になり「登録有形文化財建物に関する法令」を2001年(平成13)制定した。1975(昭和50)、県庁・県会議事堂の移転によって、1984(昭和59)県庁舎と旧県会議事堂が国重要文化財に指定され、1986年(昭和61)から修復工事をしてきた。「その流れに、うまく乗れた」と、阿部公彦さんは話す。複雑な経過はあったが、修理保存費約8億の半額県負担、町負担半額となり修復保存工事が始まった。

明治ホールにて 「有地トリオ with 春山早苗 コンサート '22」

7月30日(土) 19:00 開演 チケット大人 1,000円

お問い合わせ 090-8614-4152 コミュニティーa